

料理・栄養・ 食品の仕事 をめざす本

食の世界で働くための
仕事・資格ガイド

Menu

栄養士・管理栄養士・
フードコーディネーター・
パティシエ・料理研究家・
ワインコーディネーター・
自然食レストラン…などの仕事レシピ

成美堂出版

さらに、次々と資格を取り、専門学校
の講師、コンクール入賞などの実績も積
んでワインのプロとして実力を蓄えまし
た。ガイドブック出版の際には、1日平
均50、60本もの試飲をしてコメントをつ
けたこともありました。『いつのまにや
ら』の背景には、強いプロ意識が…。

「知識やサービスという目に見えない

ものを売る仕事です。教科書どおりに覚

えることより、社会情勢に通じているこ
とや、お客様を楽しませるエンターテイ
メント性が求められます。映画を見たり
旅をして、人としての引き出しをたくさ
ん持つことを心がけてほしいですね」



気になるワインコーディネーターの現実

1.仕事内容



一般の方向けからプロの方向けま
で、さまざまな内容で、ワイン・
日本酒・焼酎に関するセミナーを
行います。ワインに関する執筆や
コンサルタント業務もあり多忙です。

2.労働時間・休日



フリーランスなので、ある程度コン
トロールできますが、ボジョレー・ヌ
ーボー解禁後などは1日に複数のセ
ミナーをかけもちでこなすこともあり
ます。

3.求められるスキルとセンス



ワイン愛好家とワインをビジネスに
する人とは違います。求められるの
はワインに対する客観的な視点と
バランス感覚、持って生まれたサー
ビスのセンスです。

4.七つ道具



お酒に対する知識に加え、おもて
なしの心、お客様に対する観察
力・分析力でしょうか。人当たりの
よさや笑顔、インパクトも必要です。

ワインコーディネーターになるには？

ワインコーディネーターはワインのプロを総称する呼び名ですが、公的な認定資
格をとれば信頼度が増します。

ワイン専門学校で 知識と実技を学ぶ

ワインコーディネーターという職名に
は認定資格は必要ありませんが、ワイン
に関する知識はもちろん、デキャンティ
ング、銘柄を判別するテイステイングな
どの実技、さらにワインを中心にしたテ
ーブルまわりの知識やマナーも不可欠です。

世界のワインを客観的に、なおかつ体
系的に知るには、ワイン専門学校で学ぶ
のが近道でしょう。講師による講義、ワ
インのテイステイングなどが学べます。

初級・中級などコースはさまざまな
で、自分に適したレベルを選びましょう。
ワインセミナーやカルチャーセンター
でも、知識を身につけることはできま
す。あくまで趣味で楽しむ範囲の内容で
プロを養成するものではありません。

飲食業に就いて ソムリエの資格を取る

ソムリエとはレストランやホテルなど、
お酒を扱う飲食サービスに従事してい
る人のことを指します。資格取得には飲食
サービス業に従事していた期間があるこ
とが前提なので、まず飲食業に就き、ワ
インについて学んで試験を目指します。

また、メーカーなど酒類業界で働きな
がらワインアドバイザーの資格をめざす
人もいます。



ワインコーディネーターに必要な資格・役立つ資格

ソムリエ

>>>142ページ

(社)日本ソムリエ協会が認定
する資格。飲食サービス業に5
年以上従事しているか、または
3年以上従事していて同協会
の会員であることなどが受験資
格の条件。合格するとソムリエ
バッジが受けられる。

ワインアドバイザー

>>>143ページ

ソムリエと同様、(社)日本ソ
ムリエ協会が認定する資格。酒
類業界の勤務経験や、各種専
門学校の講師経験などが受験
資格として必要。必ずしも飲食
サービス業の経験がなくても受
験できる。

ワインエキスパート

>>>143ページ

実務経験の有無を問わない、
一般のワイン愛好家向けの資
格。ワインの知識があることの
証明になり、酒類業界や飲食
業界への就職に有利。(社)日
本ソムリエ協会が実施する資格
試験に合格することが必要。

SHOP DATA



ア・シュール・インターナショナル

東京都中央区佃3-6-18-1202
TEL03-3536-6319 Email: acco@kiss.email.ne.jp

セミナー講師、イベント企画プロデューサー、輸入業者や酒販・飲料店コンサル
タント、さらにはエッセイストといくつもの顔を持つ友田晶子さんが代表取
締役を務めるオフィス。友田さんは、各種専門家がガイドを務めるインターネ
ット検索サイト《All About Japan》にて「日本酒・焼酎ガイド」で活躍中。
<http://allabout.co.jp/gourmet/sake/>
著書 『女とお酒のいい関係』(小学館文庫)、『スーパーで買えるワインの本』
(マガジンハウス)、『いつのまにやらワインが職業』(新潮社)